

平成 23 年度高等学校初任者研修の取組

長野県林業総合センター 主査 ^{あおやぎ}青柳 ^{さとし}智司

要旨

長野県総合教育センター主催の「平成 23 年度高等学校初任者研修」が、長野県林業総合センターを会場として 7 月 29 日（金）に開催されました。「森林環境教育のきっかけづくり」と「森林・林業への理解」を目的に、長野県林業総合センター職員が講師となり、体験研修を実施しました。研修実施後の感想では、今後積極的に森林への関わりを持ちたいと思った教諭が約 2 割いました。今年の状態を踏まえて次年度以降の研修内容等の検討を行い、今後さらに森林・林業への理解を深め、教育現場でも活用してもらえるような研修を実施していきたい。

はじめに

平成 14 年に学習指導要領が見直され、ゆとり教育から学力向上を図るように改正されました。これに伴い、生徒達の自然体験や環境学習の時間が減少しましたが、森林・林業の大切さを理解することは重要なことです。長野県総合教育センターからまずは、自然体験を通じて自然の大切さを理解させたいとの依頼があり、高等学校初任者研修の時間で、長野県林業総合センター職員が講師となり、「森林環境教育のきっかけづくり」と「森林・林業への理解」を深めるプログラムを実施しました。

1 長野県総合教育センターの研修

長野県総合教育センターでは、教育の充実を図ることを目的として、教育関係職員の研修及び生徒の実習を行うとともに、専門的・技術的事項の研究調査、情報の収集及び提供、教育相談を実施しています。教職員関係職員の研修内容は、以下のとおりです。

(1) 教職員関係職員の研修

教職員関係職員の研修は、「豊かな人間性・自ら学び自ら考える力などの『生きる力』をはぐくむ教育の推進」を目標としています。その目標を達成するために、校長研修、教頭研修、初任者研修、経験者研修（5 年）（10 年）、生徒指導専門研修、研修派遣教員研修、指導改善研修、希望研修を実施しています。

(2) 初任者研修

初任者研修は、小学校・中学校・特別支援学校の初任者教諭を対象とした研修と高等学校初任者教諭を対象とした研修があります。高等学校初任者研修は、教職基礎研修（6 日）、教科指導基礎研修（4 日）、生徒指導研修（3 日）夏期宿泊研修（3 日間）、冬期宿泊研修（2 日間）、校外研修（7 日間）の合計 25 日間の研修を実施しています。今回の林業総合センターで行われた研修は、夏期宿泊研修（3 日間）の 3 日目に行われたものです。



写真 1 長野県林業総合センターと
長野県総合教育センター

2 高等学校初任者研修の目的と内容

長野県総合教育センターの初任者研修は、「実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得ること」を目的としています。長野県林業総合センターでは、森林・林業に関する試験研究や林業後継者の育成及び森林・林業の普及啓発を行っていますので、これまでの実績をもとに高等学校初任者研修に対応しました。

森林との関わりと森林に関する調査方法を体験しながら、「森林環境教育のきっかけづくり」と「森林・林業への理解」深めることができるように、図1の内容で研修を計画しました。

研修当日の平成23年7月29日（金）は、長野県総合教育セ

ンター専門指導主事3名、高等学校初任者教諭55名、長野県林業総合センター職員8名が参加して、表1の日程により体験研修を実施しました。初任者教諭は、約9名の班を6班つくりグループ行動となりました。以下に、具体的な研修内容を紹介します。

(1) 簡易シェルターづくり

災害等が起こった時に、森林内での雨や風を防ぐために班員が協力してブルーシートを使用し簡易テントを作る体験です。



写真2
足に使う2mの丸太4本、横木に使う6mの丸太1本、ロープ、シート固定用杭5〜6本を用意します。



写真3
足に使う2mの丸太2本を1箇所縛ります。残りの2本も同様に縛ります。



写真4
足の上に横木を乗せて縛り、持ち上げます。

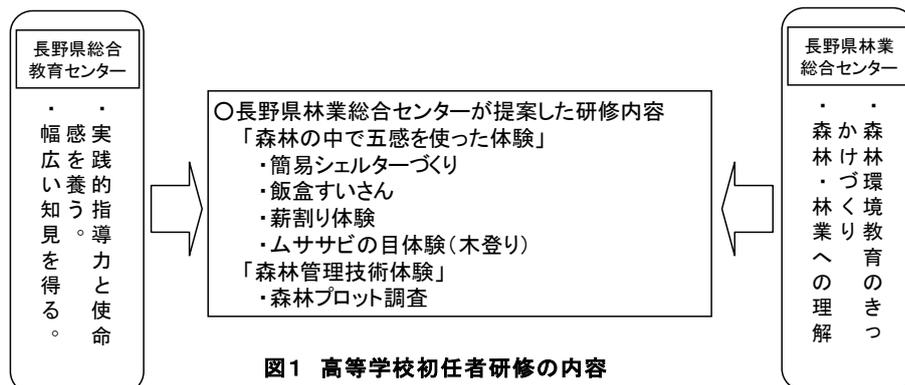


図1 高等学校初任者研修の内容

表1 高等学校初任者研修の日程

時間	実施内容	
9:00～9:20	オリエンテーション	
9:20～10:00	移動	
10:00～10:30	体験研修開講式	
	Aグループ(3班)	Bグループ(3班)
10:30～12:10	「森林の中で生きるための研修」 ・飯盒すいさん・薪割り体験	「ブルーシートを使った簡易シェルターづくり」
12:10～13:00	昼食	
13:00～15:00	「森林管理技術体験」 ・森林プロット調査	「ムササビの目体験」 ・木登り
	「ムササビの目体験」 ・木登り	「森林管理技術体験」 ・森林プロット調査
15:00～15:30	移動	
15:30～16:00	閉講式	



写真5
もう片方の足に横木を乗せて、持ち上げます。



写真6
倒れないように、足をロープで固定します。



写真7
両方の足を固定して骨組みが完成しました。



写真8
ブルーシートを上からかけ、シートを小さな杭とロープで固定します。



写真9
杭とロープで固定が終了すれば、完成です。

(2) 飯盒すいさん

当センターの敷地には、炊事可能なキャンプ場があります。焚き火等の火を扱う機会が減少している中で、身近にあるスギの葉を使用し外で火を焚き、昼食の準備も兼ねた研修を行いました。



写真10
乾いたスギの葉を集めかまの下に敷き詰めます。



写真11
スギの葉の上に小枝や細く切った薪を乗せます。



写真12
大きめの薪を乗せます。



写真13
スギの葉に火をつけて、その後枝に火がつくか見守ります。



写真14
本日の昼食のご飯と味噌汁づくりを行いました。

(3) 薪割り体験

飯盒すいさんに必要な薪づくりを行いました。「おの」を使っての体験でしたが、材はやわらかいサワラの木を使用したので、順調に実施できました。薪割機による体験もしました。



写真 15
最初に薪割りのコツを職員から聞きました。



写真 16
「おの」を使って薪割り体験をしました。



写真 17
割った薪は、皆で協力して乾燥する場所へ運びました。



写真 18
薪割機の体験も行いました。



写真 19
長さ 40cm の薪が簡単に割れました。

(4) ムササビの目体験（木登り体験）

普段は、地上から森林を見るのがほとんどですが、今回は、木の中段以上から森林内を見て、異なった景色を体験しました。また、安全ベルトと墜落防止用ロープを着用し、手が離れた場合でもロープにより体を支えることができるように、安全を確保しました。



写真 20
安全ベルトと墜落防止用ロープを着用します。



写真 21
一本梯子を登ります。



写真 22
安全ベルトをうまく使いながら、一本梯子 3 段 (6m) の上部まで登りました。



写真 23
最上部では、両手を放して、「おんべ」を振り、達成感を味わいました。



写真 24
上部から下を見たところ。



写真 25
大勢の教諭が、上部から近隣風景を見ることができました。

(5) 森林プロット調査

周囲にある森林がどの様に管理されれば適正な森林になるかを経験するために、森林管理技術体験として、森林のプロット調査を行いました。10m×10mのプロットをあらかじめ設定しておき、そのプロット内で輪尺による胸高直径測定、ブルーメライスによる樹高測定、成立本数の調査を行いました。調査結果から、ha 当たりの成立本数、平均胸高直径、平均樹高を計算し、その値を利用して、立木幹材積表から単木材積、ha 当たりの材積を求めるとともに、密度管理図から収量比数を求めました。収量比数からは、間伐の適否判定を行い間伐の必要性を学びました。



写真 26
10m×10mのプロット内の胸高直径を測りました。



写真 27
ブルーメライスを使い、20m離れた位置で、樹高を測定しました。

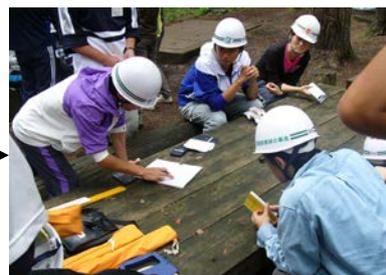


写真 28
最後に調査結果をまとめて、間伐の必要性を学びました。

3 初任者教諭の感想

研修を行った後に初任者教諭からの感想文をとりまとめました。

その内容を実践的指導力が養われたか？森林・林業に興味を持ったか？幅広い知見を得ることができたか？との観点からまとめてみました。

(1) 実践的指導力が養われたか？

主に多かった感想としては、「自然を教材として、皆で協力する手段を学ぶことができた (5名)」との内容でした。仲間と同じ目標に向かうことにより、連帯意識が芽生え協力する大切さを感じてもらいました。次に多かったのが、「五感を使って体験させる重要性が認識できた (2名)」との感想でした。「自然活用法が認識できた」「協力からのコミュニケーションのとり方」「地理学分野での活用」「生徒の進路指導の参考としたい」との感想もありました。

(2) 森林・林業に興味を持ったか？

林業や自然を強く意識した教諭は10名いました。その内訳として、「生徒達へ自然の大切さを伝えたい。(3名)」、「自然や環境への認識を高められた(3名)」「林業の重要性を感じた(2名)」、「生徒達の林業に触れる機会を設けたい(2名)」でした。55名の教諭の中で10名と約2割がこちらの

研修目的を感じとっていただけました。

(3) 幅広い知見を得ることができたか？

全体で最も多かった感想は、「木登り体験という貴重な経験ができた」でした。55名中21名の4割が強烈に印象に残ったようです。貴重な体験ができた反面「予想以上に怖かった(4名)」「楽しくできた(12名)」、「林業の大変さが解った(5名)」との感想もありました。テントを設営したことや木の上まで登ることができた達成感も味わったようです。

4 今後の取組

今後も長野県総合教育センターの専門指導主事と協力して、「森林環境教育のきっかけづくり」と「森林・林業への理解」を深めることを目的として、自然体験研修を実施していきたいと考えます。

おわりに

1名の教諭が30名の受け持ち生徒に「森林・林業の大切さ」を話したと仮定し、30年の教諭生活を過ごすと30名×30年で900名の理解者が増える計算になります。2年間同じクラスの受け持ちと考えると半分の450名になります。計算どおりにはいきませんが、森林・林業の理解者を増やすには、高等学校教諭への森林環境教育が重要であると考えます。今後も教諭への研修機会があれば「森林・林業の大切さ」を訴えていきたいと思えます。